



鹿児島県大島郡宇検村湯湾915番地

電話：0997(67)2211番

FAX：0997(67)2262番

発行所：宇検村役場

編集：総務企画課

URL <http://www.uken.net>

Mail soumuk@uken.net

CONTENTS

- P 2～3 平成23年度施政方針
- P 4～5 むらの話題
- P 6 村消防団まとい受賞
- P 7 災害被災地に対する支援
- P 8～11 お知らせ
- P 12 平成23年度当初予算
- P 14 村民のうごき



4月22日に田検小学校であった交通安全教室での一コマ。

平成23年度 施政方針

若者から高齢者まで村民が一体となり、
全員参加の村おこしを目指して！

※ここでは、平成23年第1回目の村議会定例会で発表された施政方針の内容を編集して掲載しております。
詳しくは、宇検村ホームページで確認することができます。



宇検村長
元田 信有

はじめに

私は一月に実施されました、村長選挙において、村民の多くのご支援を賜り、向こう四年間の村政を担うことになりました。

経済の低迷や激変する社会情勢の中にあつて、行政を運営していくことは極めて厳しいものがあり、今さらながらその職責の重大さを痛感しているところであります。

私が選挙期間中に述べた公約については、村議会議員並びに村民の皆様のご理解を得ながら「今日のやすらぎ・明日への希望」をテーマに、若者から高齢者まで村民が一体となり、全員参加の村おこしを目指し、村民が元気で心豊かに暮らせる村「あなたがいてこそ」の宇検村の発展に一生懸命取り組みます。

村政運営の基本方針とし

ては、第四次宇検村長期振興計画の「奄美文化の源・活力と連帯感あふれる村づくり」を基本理念として、住民の和を基本とし、豊かな自然と歴史・文化を生かし、安らぎと潤いのある宇検村づくりに取り組んで参ります。

そのためには、公正公平・透明性のある村政運営を行い、村民の融和を図りつつ、地方の時代にふさわしい個性あふれる村づくりを村民とともに築いて行きたいと思ひます。

行財政改革

国・県が行財政改革を進めていく中で、本村も平成十八年度から平成二十二年度まで行財政改革を進め、事務事業、組織機構、定員管理等を見直してきました。

これに伴い、職員の定員管理については、平成二十二年度までに目標数値

に達している状況です。今後は、平成二十八年度までの五年間で十六名の退職者がでてきますので、職員採用を年次的に計画し、退職に伴う補充を行いながら、職員数の適正な管理に努めて参ります。

また、職員の資質向上を図るため、各種研修への参加を積極的に進めて参ります。

整備事業

村道については、田検名音線が完了し、今年度から下田橋の整備に入り、三年間で完了させる予定です。

港湾事業については、今年度から新規に須古地区の防砂堤の整備をする計画です。

住宅については、今年度も引き続き川田団地（湯湾）の公営住宅の建て替えを総合的に進め、地域環境や高齢者に配慮した工法で整備

を図り、今年度で完了させます。

簡易水道については、今年度は湯湾地区の浄水場施設整備を行うとともに、芦北地区に配水施設を整備し、北部地区の供用を開始したいと考えております。

農業振興

サトウキビの生産拡大策としてトン当たり一万円の生産奨励金、ハーベスターの使用料の半額補助等を行い、黒糖焼酎の原料供給を行いながら、宇検村ブランドの開発を進めます。

また、集落独自の農産物を生産していただき、二十二年度に整備した農産物直売所「うけん市場」で販売し、だれにでもできる簡単な農作業において換金作物としての位置づけを行い、遊休地や荒廃地の解消も合わせた、高齢者の生きがいを目指して参ります。

林業振興

本村では、循環型林業の形態を目指し、その一環としてチップ工場から排出されるパークの有効利用を図り、農家への安定した堆肥の提供を目指します。

循環型林業の中には、公有林の整備事業による村有林の広葉樹や優良樹種の改良、優良樹木の植栽事業を導入し、林業全体の振興に努めて参ります。

水産振興

焼内湾においては、マグロ・クルマエビの養殖等が盛んに行われており、本村の経済に及ぼす影響は多大であるので、企業との更なる信頼関係を構築し、生産の向上に努めます。

しかし地元漁家経営は依然として資本金が脆弱で高齢化、零細漁民が多い状況

であります。

既存施設を有効利用していただき、本年度も離島漁業再生支援事業を導入し、漁家所得の向上に努めて参ります。

観光・商工業

活性化センター「結いの館」や「開運の郷」を利用し、焼酎工場や黒糖工場の見学・球場周辺に整備したグラウンドゴルフ場の利用等、観光客の増も見込まれ、宿泊施設等と連携しながら、都会の方々に自然や農作業体験を行い、中長期滞在型につながっていくような施策を講じて参ります。

次に、商工業対策につきましては、一昨年、昨年と実施しました「やけうちどんと券」も好評であり、村内の商店街も恩恵を受けたことを機に今年度も機会を捉えて実施の方向で検討して参りたいと思います。

消防・防災

昨年十月の奄美大島集中豪雨の教訓を生かし、複雑多様化する災害時の対応に消防団の組織力を最大限に生かし、防火・防災及び救急活動の迅速な展開に向けた施策に取り組んで参ります。

各集落に組織されている自主防災組織での避難訓練等の実施や各消防分団の施設の整備点検や災害・避難情報配信システムによる緊急情報の受信可能な携帯電話の助成も引き続き実施して、村民が安全で安心して暮らせる環境づくりを行います。

保健福祉

介護保険事業におきましては、包括支援センターによる更なる情報集約を図り、介護予防等の充実や介護保険事業計画に基づき実施す

るところです。

保健事業におきましては、食生活改善推進員の育成を図ると共に、食に対する意識向上を高め健康づくりの推進に努めます。

児童福祉については、児童の健全育成を推進するため、施設整備・職員研修等を進めて参ります。

教育行政

平成二十三年度も生涯学習の観点に立って、主体性、創造性、国際性を備えて、情報化、国際化に順応できる人間性豊かで、たくましく生きる村民の育成を掲げて、本村教育の充実発展を培ってまいります。

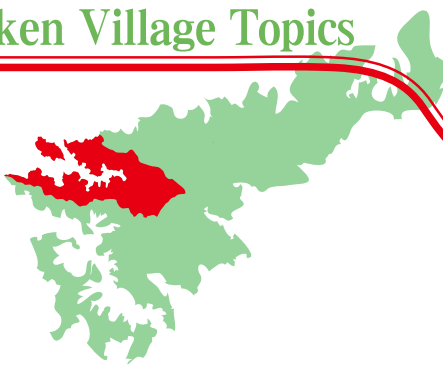
一、宇検村誌について
村制施行百周年にむけて、親しみやすい村誌刊行の準備を進めて参ります。宇検村誌「資料編第二集」は、「宇検村誌」を集大成するため

ので、村にある貴重な「古文書」の数々を村民自らが学習し、村の歴史や文化に誇りを持つ村づくりの基盤になるように活用を奨励して参ります。

二、児童生徒減少の対応策
児童生徒減少傾向が続く併設校の対応策として「親子山村留学制度」で、児童生徒を持つ世帯のＩターン、Ｕターン受け入れを基本として、校区民と連携を密にしなが児童生徒の募集活動の充実を図ります。

三、文化財保護事業
平成二十年から平成二十二年までの三年間、文化庁の文化財総合的把握モデル事業の委託を受け、文化財の総合的把握事業を行ってきました。

今後は、三年間の調査を基に、歴史文化基本構想の策定や更なる調査研究を進め、「文化財の保存と活用」を進めて参ります。



わきやしま しゅん わだい 宇検村の旬な話題

*このコーナーでは、宇検村内の旬な出来事を紹介します。みなさんの周りにあるめずらしいことなど、情報をお待ちしています。

宇検村役場 総務企画課 広報係 ☎ 0997-67-2211



記念の立て看板等を手に記念撮影。左から元田村長、津田区長、西岡大島支庁瀬戸内事務所長。

宇検集落が地域美化活動表彰

～集落全体での美化作業等が認められ～

このたび宇検集落が、平成22年度奄美群島内における「地域美化・環境保全活動表彰」の優秀賞を受賞し、3月24日に役場村長室において表彰式が行われました。この表彰は、世界自然遺産の島にふさわしい景観・環境の創造を推進することを目的として鹿児島県大島支庁が実施しているもので、宇検集落の毎月行っている美化作業や海水浴シーズン前に行う「船越海岸」の清掃作業などの活動が認められ、今回の受賞となりました。

表彰式では、西岡 一美 大島支庁瀬戸内事務所長より津田 正亮 宇検集落区長へ賞状や記念の立て看板等が授与されました。

同集落は今後の取り組みとして、集落内に流れる「南郷川」の川底が荒れているため、いつでも子ども達が海水浴できるように集落全体で河川の清掃作業を実施する予定だそうです。



宇検集落での美化作業のようす。



平日にも関わらず多くの方に参加して頂きました。苗木を手分けして植栽するようす。

苗木300本を赤土山へ植樹

～森林の活用と再生・保護を目指して～

3月16日に役場職員や村議会議員に加え、集落区長、民生委員など約60名が参加し、赤土山へオキナワウラジロガシ200本とイジュ100本の苗木の植栽が行われました。

この植樹祭は、平成19年度に再開され今回で4回目になります。オキナワウラジロガシは鹿児島県森林技術総合センターより提供して頂き、イジュは村のほうで購入しました。

当日は役場で出発式を行った後に赤土山へ移動し、森林の伐採跡地に約1時間を掛けて計300本の苗木を植えました。

宇検村は面積の約90%が森林となっており、また、村内でチップ製造を行うなど林業の村でもあります。今後も森林の活用と再生・保護に取り組んでいきたいと思えます。



作業前に説明を受ける参加者。

**春の叙勲を受章
故 吉岡 常次氏
(元村議会議員)**

このほど、故吉岡 常次氏(元宇検村議会議員)が、永年のご功労が認められ、旭日単光章を受章されました。

三月二十二日に役場村長室において、元田村長より遺族の吉岡 政一さんへ賞状および勲章が伝達されました。

吉岡 常次氏は、昭和三十一年から四十七年の四期十六年にわたり村議会議員として村政の発展に尽力されました。

その生前のご功績が認められ、今回の受章となつたものです。



村長より賞状等を受け取る遺族の吉岡 政一さん。

春の交通安全・地域安全運動

～防犯パレードと安全運転の呼びかけ運動～

5月上旬から中旬にかけて『春の交通安全運動』と『春の地域安全運動』が実施され、村内でも色々な活動があり、村民の交通安全と防犯意識の向上が図られました。

5月10日には湯湾集落にて、防犯パレードが行われ元田村長は出発式の挨拶で「安心安全な村づくりを全員で取り組みたい。」などと話しました。

パレードには、村防犯協会、各集落区長、瀬戸内警察署のほか、スポーツ少年団や学校関係者なども参加し、リーフレットの配布や横断幕を掲げるなどして、防犯意識の向上を呼びかけました。

また、5月11日には田検小学校の正門前にて、交通安全協会、交通安全母の会、同校職員の皆さんによるドライバーへの安全運転の呼びかけ運動が行われました。



防犯の啓発を呼び掛ける参加者。



安全運転の呼び掛け運動のようす。

なかやま おとしよ
唄者・中山 音女氏の復刻CDを発売

明治11年に本村の湯湾集落に生まれ、伝説の唄者として知られる中山音女さんのSPレコード盤が、日本伝統文化振興財団(東京)の手によりCDアルバムへ復刻され、5月11日より販売されています。

中山音女さんは奄美本島のほか徳之島や喜界島などにも出かけて歌声を披露したり、昭和三十年代には民謡大会にも参加するなど、唄者として活躍しました。このCDは昭和初期に音女さんが吹き込んだSPレコード全18枚の内、再生可能な14枚全27曲が復刻されたもので、島唄を代表する名曲が収められているほか、音女さんに関する解説や全歌詞の解説などが別冊で付いています。

制作を担当した財団の大野 寿子さんは解説書の中で「今回の仕事ほど文化の記録・保存・継承の意義を考えさせられたことはなかった。この新たなCDによって、奄美の歴史や文化、島唄、そして何よりも唄者・中山音女に改めて関心が寄せられることを心から願っている。」と述べています。復刻CDは2枚組の解説書付きで税込み5,000円となっています。

※ CDに関するお問い合わせは、財団法人 日本伝統文化振興財団 ☎ 03-3222-4155



中山 音女氏と今回、復刻発売されたCDアルバム。

宇 検 村 消 防 団

平成22年度日本消防協会特別表彰「^{まとい}纏」受賞

長年の伝統ある消防活動が認められる！

これまでに4つの表彰（日本消防長官表彰，日本消防協会長表彰など）を受賞。
さらに昭和63年に全国消防操法大会ポンプ車の部へ村単独チームで出場。
「宇検村消防団」設立以来の多くの優秀な活動が認められ今回の受賞となりました。



日々訓練を重ね 村を守る

村民の安全と安心を守る宇検村消防団が、このほど平成二十二年日本消防協会「^{まとい}纏」を受賞しました。

この表彰は消防団へ与えられる賞としては最高荣誉とされ、日本消防協会へ登録されている全国の約二千九百ある消防団の中で十団体のみに授与されるものです。



受賞報告会での記念撮影。右にあるのが受賞した「^{まとい}纏」。

現在、宇検消防団は七分団に八十二名が所属し、常備消防や村当局と連携を図りながら、防火防災活動を積極的にを行っています。

授与式は二月二十四日に東京の日消ホールで行われ、高木繁光 日本消防協会会長より保池久 団長へ「^{まとい}纏」が授与されました。

四月二十日に役場で行われた報告式で保池団長は「歴代団員、現団員それぞれの消防活動に対する頑張りが評価された。今回受賞した「^{まとい}纏」に負けないよう、日々訓練を重ね責務を果たしたい。」とあいさつをしました。



消防団は地域での防災機器の取扱い指導や定期的な巡回等に取り組む。写真は平成21年消防出初め式の様子。

過去の活動紹介

消防団発足 (昭和25年4月)	明治末期から昭和初期にかけて、各集落で発生した大火の反省と今後の消防力強化対策推進のため結成される。発足当時1分団30名。
湯湾集落にて建物火災発生 (昭和38年10月)	昭和38年10月25日午後1時湯湾集落にある製材所で火災が発生、消防団員総動員して迅速に包囲体制を敷いて、賢明な消火活動を行った。
台風9号来襲 (昭和45年8月)	最大瞬間風速79m/sを観測、村内各地で猛烈な暴雨のため、家屋の倒壊や河川の決壊、崖崩れ等が続発する中、団員が率先して現場活動を行った。
台風19号来襲 (平成2年9月)	凄まじい暴風雨により、石良地区で崖崩れ及び河川の氾濫が発生。消防団は宇検分駐所と連携し、積み土のう等の工法にあたった。

※上記は現場での活動を一部紹介。消防団は現場だけでなく日頃の防災活動も積極的に行っています。

昭和六十三年に 全国の消防操法 大会に出場！

消防団員の知識と教養を深めることなどを目的に現在も二年に一度開催されている消防操法大会で、昭和六十三年に本村消防団が全国大会への出場を果たしています。

当時の村広報誌へは、全国大会への出場権を獲得した県大会での優勝記事が掲載されており、小型ポンプ・ポンプ車の両部門とも本村が優勝する快挙を伝えています。



当時、広報誌へ掲載された写真。全国では5位入賞を果たした。

東日本大震災 被災地に対する支援

宇検村から被災地に
エールを送りましょう！
私たちの出来ることを
出来る範囲でしましょう。

平成二十三年三月十一日（金）、午後二時四十六分頃に三陸沖を震源とする国内観測史上最大となるマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。

この地震により、太平洋沿岸を中心に高い津波が観測され、特に東北地方から関東地方の太平洋沿岸では大きな被害がありました。

東日本大震災により、無念にもお亡くなりになられた方々に対して心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

このような大震災に対し、本村としましても、できる限り被災地・被災者への支援をしてまいりますので、村民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

本村では現在までに（五月二十日現在）次のような支援を行っております。

支援1 義援金受付窓口の設置・義援金箱の設置（3箇所）

- 義援金受付窓口 役場保健福祉課
- 義援金箱の設置場所 村役場、村元気の出る館、村社会福祉協議会
- 5月20日現在の義援金合計1,011,659円



本村では被災地へ対しての義援金受付窓口を保健福祉課へ設置するとともに、村内三箇所へ義援金箱を設置し、義援金を募りました。

本村へは各集落、個人、事業所、村職員から1,011,659円の義援金が集まり、日本赤十字社鹿児島支部などを通して被災地へお届けいたしました。

引き続き義援金を募っておりますので、村民の皆様のご協力をお願い致します。

支援2 緊急支援物資の搬送

- 搬送日 3月29日（火）午後1時
- 搬送先 茨城県高萩市
- 搬送内容 ミネラルウォーター 150箱、タンカン200^{キロ}、黒糖800袋など



三月二十九日に本村と交流のある茨城県高萩市へ、義援金三十万円とミネラルウォーターなどの支援物資を村職員が直接届けました。

同市は地震による被害が大きく、市役所の庁舎が崩壊寸前となっており、現在は業務を福祉施設へ移して、通常の業務と災害対応に当たっている状態です。

福島原発の影響で水不足が懸念されると聞き、今回緊急に搬送を行いました。

◎支援物資の搬送先について：東日本大震災で被災した茨城県高萩市の草間 吉夫 市長は、本村で毎年合宿を行っている東北福祉大学(宮城県仙台市)の元職員で何度も奄美を訪れており、平成19年11月の村政施行90周年記念式典では基調講演を行って頂くなど交流がありました。